

第5回東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会議事概要

日 時：令和2年7月14日（火）午後7時～午後8時

場 所：東淀川区役所3階区民ホール

【議事】

- 1 開会
- 2 会長（区長）あいさつ
- 3 議題
 - (1) 平成31(令和元)年度活動報告について
 - (2) 令和2年度の活動方針について
- 4 情報提供
 - ・新大阪駅周辺地域緊急整備地域検討会議について
 - ・阪急連続立体交差化事業進捗状況について（DVD 放映）
- 5 その他（意見交換）
- 6 閉会

＜配付資料＞

- ・ 議事次第
- ・ 協議会座席表
- ・ 第5回東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会資料
- ・ 新大阪駅周辺地域再生緊急整備地域まちづくり方針の骨格【概要版】

1. 開会

2. 会長（区長）あいさつ

3. 議題

(1) 平成31(令和元)年度活動報告について

(事務局)

- ・まちづくり構想部会は、5月、7月、9月、11月、12月に開催した。また、本日のまちづくり協議会后、第27回まちづくり構想部会を開催する。
- ・まちづくり構想部会では、2年前に策定したまちづくり構想の実現のため、各地域で活動報告やワークショップでの議論、発表、情報共有、アクションプランの調整等を行っている。今後はこれらの取組を生かし、課題認識からアクションプラン作成へ続いてほしいと考えている。
- ・話題提供者を招き、地域内の状況を知るために北陸新幹線の環境アセスメントの状況や柴島浄水場の現在の工事内容、新大阪駅周辺地域緊急整備地域検討協議会や阪急連続立体交差事業の進捗状況等の報告をしていただいた。緊急整備地域検討協議会と阪急連立事業については、今日の協議会でもご報告をいただく。
- ・また、各地域の共通の課題の1つである担い手不足については、摂津まるごとマーケットを手掛けている団体の代表を招き、イベント運営の仕組みや担い手を増やしていく考え方などについてご示唆いただいた。
- ・平成31年度活動報告の表に、各地域の部会員様を中心とした打合せやワークショップ等、事務局で把握できている内容について記載している。以上、平成31年度活動報告である。

(補足及び質疑応答)

- ・特になし。

(2) 令和2年度の活動方針について

(事務局)

- ・まちづくり協議会は、来年3月に各部会の報告の予定をしている。また、まちづくり構想部会も、2か月に1回、全5回の開催を予定している。
- ・各地域のワークショップについては、各地域の部会員と連携を図りながら調整する予定である。
- ・新大阪駅東口まちづくり部会については、都市整備局で行っている住宅の概略設計の進捗により別途調整をする。

(補足及び質疑応答)

- ・特になし。

4. 情報提供

・新大阪周辺地域緊急整備事業について

(都市計画局)

- ・平成30年8月に都市再生緊急整備地域の候補地域として、新大阪駅周辺地域が指定された。これを受けて、新大阪駅周辺のまちづくりについて、国や大阪府、大阪市が一体となり、事業を進めるための検討協議会が平成31年1月に立ち上げられた。以降、3回の会議を踏まえ、今年の3月にとりまとめたまちづくりの方針の骨格について報告する。
- ・国は東京都市圏や大阪都市圏という概念をなくし、東京から大阪までを一体的な都市圏だと考え、スーパー・メガリージョン構想として計画を進めていくようである。
- ・リニア中央新幹線の完成は2037年頃を予定しており、新大阪駅周辺のまちづくりについても、20年から30年先を見据えた、長期的なプランを計画的に進めていこうと考えている。
- ・検討対象地域は新大阪駅が中心になるが、大きなプロジェクトなので、周辺にも開発効果が波及していく。そのため、東淀川区の淡路地域や淀川区の十三地域までの広域的なエリアで、検討を進めていく方針を考えている。
- ・新大阪駅は今後、リニア中央新幹線や北陸新幹線も通るようになり、複数の新幹線が乗り入れる大きな広域的なターミナル駅になる。また、付近には高速道路の整備が進められており広域的な交通の結節点になっている。それらのポテンシャルを生かすような、まちづくりをしていきたいと考えている。
- ・そして、世界規模の広域的な視点でまちづくりを考えている。メガリージョン構想の中で、大阪が一番西側、アジアに近い位置にあり、長期的な世界交流の中で大きく発展するようなターミナルを目指す。
- ・さらに、新大阪駅の国内の地理的な条件についてもまとめている。新大阪駅は東京から九州まで続く国土軸と、地下鉄御堂筋線を軸とした大阪の都市軸がクロスしているポイントで、今後は新幹線の整備等で更に発展し、人や情報が集まるといった価値が引き出されていく。
- ・こうした背景を踏まえ、新大阪が担うべき都市機能を3つ掲げている。

- ・1つ目は、交流促進機能である。広域的に人が行き交うようなターミナル駅になると予想されるので、ビジネス・産業・観光といった複数の目的で、多様な人の交流が生まれる都市空間を作っていくことを掲げた。
- ・2つ目は、交通結節機能である。新大阪は国内最大レベルの新幹線や高速道路のターミナル駅になるので、複数の交通手段の乗り換えの利便性も含めて、交通結節機能を果たすことを掲げた。
- ・3つ目は、都市空間機能である。便利で使いやすいターミナルにしていだけでなく、中心部にシンボルとなるゆとりの空間を設け、魅力ある空間が人を惹きつける街にしていことを掲げた。
- ・現状の検討協議会では国や大阪府、事業者等と協議し、大まかな方向性を決めた段階に留まっている。
- ・リニア中央新幹線や北陸新幹線については、それぞれ別の駅が整備されると伺っている。駅の位置が都市開発の中で非常に大きな役割を果たすため、駅の位置が決まってきた段階で、駅前広場や大きな民間開発のゾーニングなどの具体的な議論を進めていきたいと考えている。しかし、駅の位置は1年以上先にならないと決まらない見込みである。

・阪急連続立体交差化事業進捗状況について（DVD 放映）

- ・連立事業の概要動画を視聴し、工区が8つに分かれていることや工法・事業進捗について確認した。

・令和2年度活動予定について（質疑応答）

（委員・部会員）

- ・駅の位置が定まらなないと次のゾーニングなどの検討に進んでいかなないことや、計画では広域なエリアを取り扱うことは分かった。しかし、淡路地域等の周辺地域の話は、駅位置の決定等に関わらず、具体化してもよいと思う。今後具体化していくスケジュール、計画の流れを教えてください。
- ・また、新大阪駅周辺のゾーニングについて議論が進んでいくことは分かったが、それ以外の淡路地域等の周辺地域は後回しになるということか。

（都市計画局）

- ・新大阪駅周辺が決まってから他の地域の検討をするのではなく、一体として検討したいと考えている。
- ・スケジュールについては駅の位置が検討の基準になるので、駅の位置が決まらなないとスケジュールの目途は立て辛いと考えている。

（委員・部会員）

- ・国際交流、観光といった部分について、コロナ禍の影響による計画の見直しの議論はされているのか。

（都市計画局）

- ・現時点では、計画の見直しについての議論には至っていない。ただ、今も続いている状況を踏まえ、社会や生活の様式が変わっていくかもしれないと受け止めている。
- ・本日説明した内容は今年の3月時点のものなので、コロナ禍の状況を考慮できていない計画になっている。今後、コロナ禍の状況に合わせてバージョンアップしていこうと考えている。

5. その他（意見交換）

（委員・部会員）

- ・今後、お願いしたいことを3点申し上げる。
- ・1つ目は、住民参加のまちづくりをしていただきたい。

- ・2つ目は、区や国のビジョン、また阪急といった事業者のビジョン、そして私達住民のまちづくりビジョン、これら三位一体になったまちづくりを行っていただきたい。
- ・3つ目は、ローカルエリアごとのまちづくりに対するご意見を国の計画に反映していただきたい。
- ・地域ごとの保健福祉計画とローカルエリアのまちづくりビジョンを区の計画に位置付けることを目指していきたい。
- ・新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域について、これまでに国や企業、学識経験者により3回議論されているが、私は国や企業、学識経験者だけによる、まちづくりではダメだと思っている。各地域からご意見を伺い、国レベルの計画に地域住民の意見を反映して貰いたい。
- ・構想部会の代表やメンバーから国の計画の委員に入ることはできなかったが、区長にオブザーバーとして入っていただいているので、地域住民の意見と国の検討会の意見が合わさるような形で住民参加のまちづくりをしていただきたい。
- ・阪急の立体交差事業は令和6年には切り替えが進むとのことで、協力をしていきたい。ただ、これについても各地域の意見を踏まえて進めていただきたい。

(会長)

- ・区役所としてもまちづくりは地域の声を生かして、区の将来ビジョン、新大阪駅周辺エリアの将来ビジョンを、運用計画の中へ落とし込んでいく必要があると思っているので、引き続き協力をお願いします。

(近畿大学 久教授)

- ・街の変化に先駆けて、西部地域バリアフリーまちづくり構想を作ったことで、地域の将来の方向性を地域内で共有できてよかったと思う。緊急整備地域の議論にも、西部地域バリアフリーまちづくり構想が1つの大きな資料として活用いただければと思う。
- ・そして、このようなビッグプロジェクトでは大きなお金も動くし、下手をすると住民の住環境も変わる。住環境の話を横に置きながら進めてしまうことは危険だと思う。
- ・新大阪駅を作る際の区画整理事業の結果、新大阪駅の西側はオフィス街となった。しかし、東側は半分を住環境とした良好な地域であることを配慮しながら、緊急整備地域の検討を進めていただきたい。
- ・西区はオフィスと住宅がうまく共存し、公園や緑も多い地域なので、西区のような雰囲気に住環境も保ちつつ、オフィスも配置できるようなイメージが良いと思う。
- ・部会員からもあったがコロナ禍については、私も議論せざるを得ない問題だと思う。以前はグローバル化の方針が強かったが、コロナ禍の影響により世界中でローカルな視点が見直されている。これからは、グローバルとローカルをどのように組み合わせていくのかも、非常に重要な観点になると思う。
- ・黒門市場がその事例の1つで、ここ数年間、海外の観光客を中心に賑わっていた。しかし、コロナ禍の影響で賑わいが失われている。そこで、もう一度地域の人に支えられてこそ黒門市場ではないかと見直しがされている。
- ・海外の観光客だけに頼ってしまうと、海外の状況が変わった時に地域は大打撃を受けてしまう。今後は地域の住民を大きな柱として、開発は進んでいくのではないかと期待している。
- ・最後にもう1つ、約50年前にできた千里ニュータウンが、今、再生で非常に苦心していることがある。市民活動等の活動拠点を千里ニュータウンの中で取りたくても、近隣センターや地区センターでしか、活動

拠点や事務所を置けない状況で、月数十万円の家賃を払わないと借りることができない。活動拠点がないと、市民活動は難しいと思う。ところが東淀川区西部地域では、月数万で借りられる物件が多くある。つまり、東淀川区西部地域は千里ニュータウンと違い、市民活動がやり易いということである。

- ・大きな資本の動きだけでまちを変えるのではなく、市民活動といった地道なまちづくりも、大きな資本を投入するまちづくりも、両立して行うことが重要になると思う。
- ・検討会議に阪急から参加している方は、20年ほど前から曾根地域のまちづくりをやってこられた方で、私も一緒にやらせてもらった。そういった地元密着の視点がある方が、検討会議に入られているのは良かったと思う。
- ・我々が築き上げたまちづくり構想を、もう一つの柱として大切にしていきたいと、私の方から再度念を押しておきたい。

(会長)

- ・区役所も積極的にかかわっていくが、本日出席いただいている、皆さまのお力添えが必要となるので、引き続き協力をお願いしたい。
- ・特に地域活動協議会の会長には部会長、部会員の地域でのアクションプラン策定の具体的な活動に際して、お力添えを引き続きお願いしたい。

6. 閉会

- ・次回の協議会は2021年3月11日開催予定。

以上